

勉誠社

歴史学研究会 会員様対象 特別割引のご案内

全品 **20%OFF**

割引クーポンコード: 385ad385ec
(期限: ~2026年6月30日)

謹啓

薫風の候、日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- 弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード: 385ad385ec (期限: ~2026年6月30日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください!

未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費/私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- 送料
6,000円(税込)未満の購入 → 送料 600円
6,000円(税込)以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
歴史学研究会の会員であることをお知らせください。**

●ご連絡先

Mail info@bensei.jp

電話 03-5215-9021

FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

・黄色マーカーの書籍は、展示しております。
 ・割引価格は、学会大会会場等での現金販売時の価格です（定価の2割引額の十の位を四捨五入した金額）。
 ・公費支払い等の後払い、弊社ウェブサイトでのご注文の場合は、定価の2割引での販売となります。ご了承くださいませよう願いたします。

	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価(税込)	割引価格	注文数
近刊	プロパガンダのデザイン—十五年戦争期の画家と図案家	田島奈都子 編著	2026/07	37021-5	予価16,500	予価13,200	
	デジタルアーカイブの権利処理入門	数藤雅彦 責任編集／小山紘一・川野智弘・酒井麻千子・鈴木康平 編	2026/06	30025-0	3,850	3,100	
	舞楽図の近世的展開—形成・変奏・復古	古谷美也子 著	2026/06	37024-6	9,900	7,900	
	学校司書のお仕事	大橋崇行 著／有山裕美子 監修	2026/04	30023-6	1,980	1,600	
	「文人画」と近代—概念・中国絵画史学・国画	李趙雪 著	2026/04	37026-0	11,000	8,800	
	戦国合戦図屏風・絵巻を読む	堀新 編	2026/03	32082-1	14,300	11,400	
	歴史学の見方・考え方—研究の舞台裏	高橋宏明・宮間純一 編	2026/03	32092-0	2,200	1,800	
	日本宗教文化史の射程	吉原浩人 監修／鈴木英之・平沢卓也・崔鵬偉 編	2026/03	31027-3	9,900	7,900	
	国策紙芝居からみる日本の戦争Ⅱ	神奈川大学非文字資料研究センター「戦時下国策紙芝居と大衆メディアの研究」班 編著	2026/03	37025-3	11,000	8,800	
	絵画史料を読む—中世・近世の生活文化史	齊藤研一 著	2026/03	32090-6	4,620	3,700	
	歌謡と芸能—在原業平の表象	児玉絵里子 著	2026/01	37023-9	4,180	3,300	
	鷹狩の日本史 増補改訂版	福田千鶴・武井弘一 編	2025/12	32069-2	4,620	3,700	
	黎明期の活字出版—和装活版本から文学書肆春陽堂の成立	山田俊治 著	2025/12	39051-0	6,600	5,300	
	洛中洛外図屏風の歴史学—歴博甲本から吉川史料館本まで	大塚活美 著	2025/11	32074-6	13,200	10,600	
	文化財を未来につなぐ博物館と学芸員の仕事—学芸員をめざす人へ	高木徳郎 編著	2025/11	30022-9	3,080	2,500	
	江戸時代の図説事典 訓蒙図彙	小林祥次郎 解題	2025/10	30019-9	11,000	8,800	
	和様と唐様の建築史学史	野村俊一 編著	2025/07	35004-0	8,800	7,000	
	徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は語る—将軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	黒田日出男 著	2025/07	32068-5	4,180	3,300	
	デジタルアーカイブ入門—つかう・つくる・支える	柳与志夫・渡邊英徳 責任編集	2025/06	30015-1	4,620	3,700	
	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,600	
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,100	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,900	
	帝鑑図と帝鑑図説—日本における勸戒画の受容	小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 編	2024/11	37017-8	16,500	13,200	
	デジタル時代のコレクション論（デジタルアーカイブ・ベーシックス）	中村覚・逢坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,100	
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400	
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3,080	2,500	
	社寺建築を知るための用語集—日本の歴史的建築を考える	濱島正士 著／文化財建造物保存技術協会 編集協力	2024/06	35003-3	4,180	3,300	
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700	
	増補改訂版 図像学入門—疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2,640	2,100	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす—東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15,400	12,300	
	器と信仰—東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプローチ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16,500	13,200	
	コレクションと歴史意識—十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	本 かたちと文化—古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	日本近世史入門—ようこそ研究の世界へ！【重版出来！】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	訂正新版 図説 書誌学—古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
	紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝（新コディコロジー研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
	重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
	物語る仏教絵画—童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
	機巧の文化史 異聞—海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
	輞川図と蘭亭曲水図—イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
	もやもや日本近代美術—境界を揺るがす視覚イメージ	増野恵子・安松みゆき・河田明久・志邨匠子・瀧井直子・奥間政作・石井香絵 編	2022/12	37004-8	5,280	4,200	
	上杉本洛中洛外図屏風の研究—桑実寺縁起絵巻と共に	小谷量子 著	2022/09	32020-3	9,900	7,900	
	コレクションとアーカイブ—東アジア美術研究の可能性	板倉聖哲・塚本磨充 編	2022/01	37000-0	10,450	8,400	
	デジタルアーカイブ・ベーシックス4 アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	20284-4	2,750	2,200	
	アーネスト・サトウと蔵書の行方—『増補浮世絵類考』の来歴をめぐる	小山騰 著	2020/11	20078-9	4,620	3,700	
	日本画の所在—東アジアの視点から	北澤憲昭・古田亮 編	2020/04	27055-3	7,150	5,700	

日本の表装と修理	岩崎奈緒子・中野慎之・森道彦・横内裕人 編	2020/03	20073-4	7,700	6,200
日本の文化財—守り、伝えていくための理念と実践	池田寿 著	2019/03	20064-2	3,520	2,800
木口木版のメディア史—近代日本のヴィジュアルコミュニケーション	人間文化研究機構 国文学研究資料館 編	2018/03	27048-5	8,800	7,000
国策紙芝居からみる日本の戦争	神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター「戦時下日本の大衆メディア」研究班 代表・安田常雄 編著	2018/03	27044-7	6,600	5,300
紙の日本史—古典と絵巻物が伝える文化遺産	池田寿 著	2017/06	22176-0	2,640	2,100
鳥獣戯画 修理から見えてきた世界—国宝 鳥獣人物戯画修理報告書	高山寺 監修/京都国立博物館 編	2016/09	27025-6	11,000	8,800
プロパガンダ・ポスターにみる日本の戦争—135枚が映し出す真実	田島奈都子 編著	2016/07	27031-7	3,080	2,500
書誌学入門—古典籍を見る・知る・読む	堀川貴司 著	2010/04	20001-7	1,980	1,600
アジア遊学271 儒教思想と絵画—東アジアの勸戒画	水野裕史 編	2022/06	32517-8	3,520	2,800
アジア遊学306 建築とオリジナル 創造・継承・解釈	赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀 編	2025/08	32552-9	4,180	3,300
アジア遊学303 瓦から探る中世寺院	中世瓦研究会 編	2025/05	32549-9	3,300	2,600
アジア遊学301 描かれた法華経—本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,600
アジア遊学300 性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,500
アジア遊学297 廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600
アジア遊学296 天文文化の視点—星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,100
アジア遊学295 蘇州版画—東アジア印刷芸術の革新と東西交	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,800
アジア遊学269 近代中国美術の境界—越境する作品、交錯する藝術家	瀧本弘之・戦暁梅 編	2022/05	32515-4	3,850	3,100
書物学 第33巻 蔵書家・集書家・書誌学者—蔵書・研究とその時代	編集部 編	2025/12	30733-4	2,200	1,800
書物学 第32巻 チリメン絵—ゴッホを魅了した知られざる出版文化	編集部 編	2025/11	30732-7	2,200	1,800
書物学 第29巻 蔦屋重三郎と日本の出版文化 蔦重手引草	編集部 編	2025/08	30729-7	2,200	1,800
書物学 第28巻 相国寺—寺宝が伝える歴史と信仰	相国寺承天閣美術館 編	2025/08	30728-0	2,200	1,800
書物学 第26巻 古筆見の仕事—真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2,200	1,800
書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり—近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800
書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ—香雪美術館書画コレクションを支える装幀修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600
中国の舞台	伊藤茂・中山文 著	2026/03	37027-7	5,940	4,800
ラジオの技術・産業の百年史 増補改訂版—大衆メディアの誕生と変遷	岡部匡伸 著	2026/02	32081-4	7,700	6,200
高木東六バリ音楽留学日記—1928年~1931年	藤井浩基 著	2025/12	37022-2	12,100	9,700
宋代中国都市の形態と構造 新装版	伊原弘 著	2025/10	32079-1	4,950	4,000
新装版 近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2025/10	32075-3	8,800	7,000
書物学 第31巻 100年後も手に取れる本に！—日比谷図書文化館「内田嘉吉文庫」の保存・修復・活用	編集部 編	2025/10	30731-0	2,200	1,800
書物学 第27巻 近代製本の100年—明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2,200	1,800
中国の女性演劇—越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600
道教文化と日本—陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,300
新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	15,000
古文書修復講座—歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修/関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,300
楷書の秘密—「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300
泰山諸神の信仰の展開—東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000
増補改訂 江戸の異性装者たち—セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800
中国古典文学に描かれた廁・井戸・簪（オンデマンド版）—民俗学的視点に基づく考察	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900
アジア遊学285 渾沌と革新の明治文化—文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500
野村太一郎の狂言入門	野村太一郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500
近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版）—継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900
霊峰の文化史—世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800
二世紀の川劇—文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000
デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800
古代日本の儀礼と音楽・芸能—場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800

	フェイク・スペクトラム—文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
	伝達と変容の日本建築史—伝わるかたち／伝えるわざ	野村俊一 編	2022/07	35001-9	3,850	3,100	
	奈良絵本『太平記』の世界—永青文庫所蔵『絵入太平記』全挿絵影印ならびに研究	中根千絵・森田貴之 編	2022/03	39007-7	55,000	44,000	
	ことば・ほとけ・図像の交響—法会・儀礼とアーカイヴ	近本謙介 編	2022/03	31009-9	13,200	10,600	
	宗教遺産テキスト学の創成	木俣元一・近本謙介 編	2022/03	31008-2	16,500	13,200	
	中国道教美術史 漢魏晋南北朝篇	李松 著／土屋昌明・齋藤龍一 監訳／廣瀬直記・熊坂聡美・因幡聡美 訳	2022/02	37001-7	38,500	30,800	
	アジア遊学265 宗教芸能としての能楽	高橋悠介 編	2022/01	32511-6	3,300	2,600	
	合戦図 描かれた〈武〉	中根千絵・薄田大輔 編	2021/12	32013-5	17,600	14,100	
	アジア遊学262 資料論がひらく軍記・合戦図の世界—理文融合型資料論と史学・文学の交差	井上泰至 編	2021/10	32508-6	3,520	2,800	
	パブリック・ヒストリー入門—開かれた歴史学への挑戦（オンデマンド版）	菅豊・北條勝貴 編	2021/05	82254-7	5,280	4,200	
	日本の図書館建築—建築からプロジェクトへ	五十嵐太郎・李明喜 編	2021/03	20074-1	3,850	3,100	
	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301-6	9,900	7,900	
	観相の文化史	相田満 著	2021/02	29203-6	9,900	7,900	
	戦国合戦図屏風の歴史学	高橋修 著	2021/02	22301-6	9,900	7,900	
	古文書への招待	日本古文書学会 編	2021/01	22277-4	3,300	2,600	
	【デジタルアーカイブ・ベーシックス4】 アートシーンを支える	高野明彦 監修／嘉村哲郎 責任編集	2020/12	20284-4	2,750	2,200	
	医学・科学・博物 東アジア古典籍の世界	陳捷 編	2020/02	20072-7	13,200	10,600	
	歴博甲本洛中洛外図屏風の研究	小谷量子 著	2020/02	22257-6	11,000	8,800	
	日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2020/02	22268-2	18,700	15,000	
	描かれたマカオ Images of Macau—ダーウェント・コレクションにみる東西交流の歴史 East-West Exchange and the Derwent Collection	貴志俊彦・朱益宜・黄淑薇 (Toshihiko Kishi, Cindy Yik-yi Chu, Suk Mei Irene Wong) 編	2020/02	22262-0	24,200	19,400	
	【デジタルアーカイブ・ベーシックス1】 権利処理と法の実務	福井健策 監修／数藤雅彦 責任編集	2019/03	20281-3	2,750	2,200	
僅少	出版文化のなかの浮世絵	鈴木俊幸 編	2017/10	27042-3	4,180	3,300	
僅少	G・E・モリソンと近代東アジア—東洋学の形成と東洋文庫の蔵書	公益財団法人 東洋文庫 監修／岡本隆司 編	2017/09	22189-0	3,080	2,500	
	古文書料紙論叢	湯山賢一 編	2017/06	22184-5	18,700	15,000	
僅少	詩的言語と絵画—ことばはイメージを表現できるか	今野真二 著	2017/05	28034-7	3,080	2,500	
	文化財としてのガラス乾板—写真が紡ぎなおす歴史像	久留島典子・高橋則英・山家浩樹 編	2017/04	22173-9	4,180	3,300	
僅少	鉄形蕙斎画 近世職人尽絵詞—江戸の職人と風俗を読み解く	大高洋司・大久保純一・小島道裕 編	2017/02	27038-6	16,500	13,200	
	東京復興写真集1945～46—文化社がみた焼跡からの再起	東京大空襲・戦災資料センター 監修／山辺昌彦・井上祐子 編	2016/07	27028-7	11,000	8,800	
	地域と人びとをささえる資料—古文書からプランクトンまで	神奈川地域資料保全ネットワーク 編	2016/05	22150-0	3,850	3,100	
	決定版 広島原爆写真集 The Collection of Hiroshima Atomic bomb Photographs	「反核・写真運動」 監修／小松健一・新藤健一 編	2015/08	27023-2	2,750	2,200	
	決定版 長崎原爆写真集 The Collection of Nagasaki Atomic bomb Photographs	「反核・写真運動」 監修／小松健一・新藤健一 編	2015/08	27024-9	2,750	2,200	
	アジア学の宝庫、東洋文庫—東洋学の史料と研究	東洋文庫 編	2015/03	20030-7	3,080	2,500	
僅少	テキストとイメージを編む—出版文化の日仏交流	林洋子／クリストフ・マルケ 編	2015/02	27021-8	5,280	4,200	
	決定版 東京空襲写真集—アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録	早乙女勝元 監修／東京大空襲・戦災資料センター 編	2015/01	27019-5	13,200	10,600	
	カラー百科 写真と古図で見る 狂言七十番	田口和夫 編	2014/11	27017-1	3,520	2,800	
	図説 よりすぐり国立国会図書館—竹取物語から坂本龍馬直筆まで	国立国会図書館 編	2014/10	20029-1	3,080	2,500	
僅少	【国文学研究資料館影印叢書6】 狂言絵 彩色やまと絵	国文学研究資料館 編／小林健二 解説	2014/05	29068-1	14,300	11,400	
僅少	ちりめん本影印集成 日本昔噺輯篇	中野幸一・榎本千賀 編	2014/03	20027-7	110,000	88,000	
僅少	前田育徳会尊経閣文庫所蔵 七十一番職人歌合	公益財団法人 前田育徳会尊経閣文庫 編	2014/03	22075-6	27,500	22,000	
	地域と文化財—ボランティア活動と文化財保護	渡邊明義 編	2013/03	22503-4	3,740	3,000	
僅少	薄雲御所 慈受院門跡 所蔵 大織冠絵巻	恋田知子 釈文・解説	2010/04	27000-3	11,000	8,800	
	和紙のすばらしさ—日本・韓国・中国への製紙行脚	ダード・ハンター 著／久米康生 訳 (和紙文化研究会代表)	2009/08	03247-2	3,080	2,500	
	古代製紙の歴史と技術	ダード・ハンター 著／久米康生 訳 (和紙文化研究会代表)	2009/08	03246-5	5,500	4,400	
僅少	文化財と古文書学—筆跡論	湯山賢一 編	2009/04	03232-8	3,960	3,200	
僅少	歴史知識学ことはじめ	横山伊徳・石川徹也 編著	2009/03	00306-9	1,870	1,500	
僅少	【甦る絵巻・絵本】 鎌倉英勝寺所蔵 大黒舞絵巻	木村千鶴子・八木意知男 解説／吉田とよ子・吉田宏美 英訳	2006/10	00322-9	13,200	10,600	

金子修一〔著〕

唐代国際文書研究

訳註 陸贄・白居易・李徳裕・封敖の国書

〔目次〕

国家間で交わされる文書、国書――。

その形式的特徴は冒頭の書式に鮮明に現れる。

しかし、書式が丁寧であつても内容が強硬な場合もあり、特に唐と異民族との間に交わされた国書については、冒頭と内容との関係に留意しながら読み解いていくことが肝要である。

じゅうらい盛唐の玄宗朝までの唐代国書の研究に取り組んできた著者は、

本書では唐の勢いが次第に傾いていく

唐代後半の国際関係の動きと重ね合わせつつ、

白居易・陸贄(りくし)・李徳裕・封敖(ほうこう)が残した

国書など、内容の伝わる同時期の国書ほぼすべてを

丹念に読み解く。

そこからは唐の朝廷と有力な異民族の有力者との

遣り取りや、

辺境における唐の官僚と異民族との駆け引きを

如実に窺うことができる。

〔編者プロフィール〕

金子修一(かねこしゅういち)

一九四九年生まれ。元國學院大學文学部教授。専門は中国古代史。著書に『古代中国と皇帝祭祀』(汲古書院、二〇〇一年)、『中国古代皇帝祭祀の研究』(岩波書店、二〇〇六年)、共編著に『梁職貢図と東部ユーラシア世界』(共編、勉誠出版、二〇一四年)、『日本古代交流史入門』(共編、勉誠出版、二〇一七年)などがある。

序に代えて―唐代国際文書形式研究の回顧

〔文苑英華〕卷四六八 與廻鵲可汗書 陸贄(一)〜(三)

〔旧唐書〕卷一四七 高郢伝

〔文苑英華〕卷四六八 與回鵲可汗書 白居易(一)〜(四)

〔文苑英華〕卷四六八 賜回鵲可汗勅書 李徳裕(一)〜(五)

〔文苑英華〕卷四六八 賜太和公主書 李徳裕(一)〜(三)

〔文苑英華〕卷四六八 賜回鵲可汗書 李徳裕(一)〜(四)

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵲可汗書意 李徳裕(一)〜(二)

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵲可汗書 李徳裕(一)〜(三)

〔全唐文〕卷六九九 賜回鵲可汗書 李徳裕(一)〜(四)

〔文苑英華〕卷四六八 賜党項勅書 李徳裕(一)〜(二)

〔文苑英華〕卷四六九 勅吐蕃宰相尚結贊書 陸贄(一)〜(三)

〔文苑英華〕卷四六九 勅尚結贊第二書 陸贄(一)〜(二)

〔文苑英華〕卷四六九 勅尚結贊第三書 陸贄(一)〜(四)

〔文苑英華〕卷四七〇 與吐蕃宰相尚騎心兒等書 白居易(一)〜(三)

〔文苑英華〕卷四七〇 與吐蕃贊普書 封敖(一)〜(二)

〔白居集〕卷五七 代王佖吐蕃北道節度論贊勃藏書(一)〜(三)

〔白居集〕卷五七 代忠亮吐蕃東道節度使論結都離等書(一)〜(三)

〔文苑英華〕卷四七〇 與南詔清平官書 白居易

〔文苑英華〕卷四七〇 與南詔清平官書 封敖

〔文苑英華〕卷四七一 與驃國王雍光書 白居易

〔文苑英華〕卷四七一 與渤海王大舜震書 封敖

〔文苑英華〕卷四七一 與契丹王鶴戌書(一) 封敖

〔文苑英華〕卷四七一 與契丹王鶴戌書(二) 封敖

終章 漢―宋間の国書冒頭の書式について

書後

追補

寶臬 為肅州刺史劉臣璧答南蕃書

牛叢 報坦綽書

唐以前の漢籍を学ぶために―史学方法論研究 I

〔随想〕心に残る言葉

追補によせて

定価 3,850 円

(本体 3,500 円)

A5判並製カバー装・352頁

ISBN 978-4-585-32102-6

C1022

2026年5月刊行

書名	部数
唐代国際文書研究 訳註 陸贄・白居易・李徳裕・封敖の国書 金子修一〔著〕	部
ご送付先 (氏名・住所・電話番号)	

定価 3,850 円(本体 3,500 円)

A5判並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-32102-6
2026年5月刊行

敦煌変文・俗講と 民間信仰の世界 大地の文学と信仰

中国西北、甘肅省西南部に位置し、古来より東西往来の要衝として栄えてきた敦煌。この土地から一九〇〇年に発見された「藏経洞」文献は約六万四〇〇〇点に及ぶ。

その大半は手書きで、経典、注釈、帳簿、書状、地方行政文書、歌謡、説話、教育用の手本など、内容は驚くほど多岐にわたる。その中核をなす一群が、講唱文学と呼ばれる文献群——変文、講経文、押座文、讚文、取散文など——である。

それらの多様な史料は、どのように交錯し重なり合い、歴史的現実を描き出してきたのか。

そして、その文化的営為が日本を含む東アジアへとどのように伝播し、変容し、再創造されてきたのか。

六朝から唐宋にかけての東アジア世界において、人々がいかに「大地」に根ざしながら文学を生み出し、信仰を育み、思想を形成してきたのかを問い直す。

序文：荒見泰史

敦煌の信仰と文学：荒見泰史

唐五代における俗講の開催時期と王権との関係：楊明璋

敦煌講唱文学における「省略体」の研究——『妙法蓮華経講経文』、『維摩詰経講経文』を例として：何劍平

敦煌本『王昭君』詩の研究：孫尚勇

『燕子賦』二種から見る敦煌対話体写本文献分類の一視点：趙麗荏

敦煌文献中に見られる人神故事の信仰表現と文学：林生海

唐代敦煌における民衆の仏教信仰と日常の探求

——その文学的側面——フランス国立図書館所蔵敦煌文献「釈門文範」を中心に：黄志杰

「漢法本内伝」のテクスト形成に関する諸問題の研究：薛国中（翻訳：劉苗苗）

慧覺考：楊柳

敦煌文献「讀法門寺真身五十韻」を起点に探る円仁入唐求法の記憶——『源氏物語』への受容と影響：陳斐寧

『靈驗譚』から見る仏教文学作品の成立——靈驗譚と伝統文学の関係を兼ねて論ずる：馮家興

『千字文』と仏教——書法・啓蒙・禪師語録からの考察：任占鵬

敦煌・トルファン文書にみられる「側書」の再考察：玉素甫艾沙

敦煌新出土『隋郡善郡司馬張教墓誌』の考釈：馬振穎・黄瑞娜（翻訳：劉苗苗）

王符の立場と思想：長谷川隆一

色彩と儒教的秩序：荒見愛

杜甫「譏陶説」に関する公案的再考察：張月

荒見泰史〈編〉

定価3,850円・本体3,500円
A5判・並製カバー装・336頁
2026年6月刊行
ISBN978-4-585-32565-9 C1398
[アジア遊学№319]

書名	冊数
敦煌変文・俗講と民間信仰の世界 ——大地の文学と信仰 荒見泰史〈編〉	冊
定価 3,850円・本体 3,500円 A5判・並製カバー装・336頁 2026年6月刊行 ISBN978-4-585-32565-9 C1398 [アジア遊学№319]	
送付先住所・氏名(通信欄)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

北条貞時の時代

北条時宗の嫡男として生まれ、十四才という若さで鎌倉幕府第九代執権となった北条貞時。

この時代は得宗専制と呼ばれる時期の後半にあたり、前代である時頼・時宗期と比べ政治・社会体制が変質を迎えていく時期であった。

蒙古襲来以降の鎌倉時代の後期であり、後の南北朝時代へと続く時代の転換点である北条貞時の時代を通じて、鎌倉時代後期の北条氏、鎌倉幕府、中世社会を明らかにする。

はじめに

第一部 北条貞時時代の政策

北条貞時政権に関する考察：森 幸夫
永仁の徳政令の再検討——北条貞時と幕府政策の新視点：泉田崇之
嘉元の乱再考——「嘉元三年雜記」が語る事件の真相：山野井功夫
【コラム】近世の地誌に見える北条貞時：塚本洋司

第二部 異国降伏

「蒙古降伏祈禱注進状」にみる正応年間の異国降伏祈禱と政治状況：時田栄子
異国降伏と寺社修造——「寺社修造ブーム」はあったのか：徳永健太郎

第三部 文書論

北条貞時発給文書の研究：北爪寛之
六波羅探題文書概論：川島孝一
鎌倉期河野氏の文書史料について——河野通久・通有を中心に：磯川いづみ
【コラム】長門・周防探題宛の関東御教書——北条氏研究会例会の一齣：菊池紳一

第四部 北条氏と御内人

二人の北条宗房：山野井功夫
平頼綱夫妻・一族の日常生活と後深草院二条の関わり：伊藤一美

第五部 御家人の動向

鎌倉の宇都宮景綱：永井 晋
後深草院二条と東国武士の交流：山野龍太郎
【コラム】北条貞時政権と安保氏の展開——安保宗家と安保庶家(信員流)の系譜：泉田崇之

第六部 関東祇候廷臣

撰家將軍・親王將軍の鎌倉下向に供奉する関東祇候廷臣：牡丹健一

第七部 得宗領

得宗領の成立過程——関東御分国・尾張国篠木荘等を通して：菊池紳一

第八部 『吾妻鏡』の編纂と用語

『吾妻鏡』にみる執権・連署
——執権・連署制の再検討をめざして：菊池紳一
渋谷氏と渋谷荘：菊池紳一
鎌倉幕府の政所について——『吾妻鏡』の記述を通して：菊池紳一
【研究ノート】「永仁三年記」にみる北条貞時の動向等
——寄合・評定・引付、そして人名表記：菊池紳一
【コラム】鎌倉時代の諫言の周辺：池田悦雄
あとがき／執筆者一覧

北条氏研究会

〈編〉

主要著書に、『武蔵武士を歩く 重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡』(勉誠出版、二〇一五年)、『武蔵武士の諸相』(勉誠出版、二〇一七年)、『鎌倉北条氏人名辞典』(菊池紳一監修、勉誠出版、二〇一九年)、『北条氏発給文書の研究 附 発給文書目録』(勉誠出版、二〇一九年)、『北条義時の生涯 鎌倉幕府の草創から確立へ』(菊池紳一監修、勉誠出版、二〇二三年)、『武蔵武士を巡る 東京・神奈川の史跡と伝説』(勉誠社、二〇二五年)など多数。

定価 16,500円・本体15,000円
A5判・並装カバー装・736頁
2025年6月刊行
ISBN978-4-585-32103-3 C3021

書名	冊数
北条貞時の時代 北条氏研究会〈編〉	冊
定価 16,500円・本体15,000円 A5判・並装カバー装・736頁 2025年6月刊行 ISBN978-4-585-32103-3 C3021	
送付先住所・氏名(通信欄)	

中世前期の 武家の学問と交流

金沢文庫本と称名寺聖教

鎌倉幕府が擁立した後嵯峨院期に公武の交流が緊密となって以降、京都の文化が鎌倉に流入し、さらに御家人らを通して地方へ伝播していった。東国の知の中枢として後世に至るまでその名を轟かせた金沢文庫の典籍、そして、金沢北条氏の菩提寺称名寺に残された称名寺聖教を仔細に検討、鎌倉時代中期から南北朝後期における和書・漢籍・聖教類の東国への伝来と享受、さらには地方における展開を見通し、そこに関わった人々と知のネットワークを明らかにする。

第一部 金沢北条氏の京都との交流と蔵書管理

第一章 鎌倉後期の鎌倉・京都の交流——金沢文庫文書を通して

第二章 称名寺と金沢文庫——東国鎌倉の「知」の中枢

第三章 金沢文庫文書の目録作り——初代文庫長関靖先生へもどる仕事

第二部 法流の相承と鎌倉の拠点寺院

第一章 中世寺院のネットワーク

第二章 安達泰盛と鎌倉の寺院

第三章 鎌倉松谷正法蔵寺小考

第四章 金沢称名寺と伊勢・鎮西——伊勢国高角大日寺をめぐる

第三部 北条実時の漢籍受容とその媒介者

第一章 鎌倉中期の京・鎌倉における漢籍受容者群——「管見抄」と「鳩嶺集」のあいだ

第二章 鎌倉中期の京・鎌倉の漢籍伝授とその媒介者——金沢文庫本とその周辺

第三章 「名語記」の著者経尊とその周辺——鎌倉中期の公武交流と西国の交通・流通

第四部 知識の蓄積・利用のありかたと武家政権

第一章 延慶改元・改暦への鎌倉幕府の関与について——「大唐陰陽書」付載文書の検討をてがかりにして

第二章 鎌倉期の年号勘申者の家と公武政権

第三章 年号勘文より見た南北朝期における朱子学の受容

第四章 中世前期の武家の蔵書と読書

福島金治

〈著〉

（ふくしま・かねはる）一九五三年生まれ。愛知学院大学名誉教授。専門は日本中世史。著書に「金沢北条氏と称名寺」（吉川弘文館、一九九七年）、「安達泰盛と鎌倉幕府——霜月騒動とその周辺」（有隣堂、二〇〇六年）、「学芸と文芸——生活と文化の歴史学」（編著、竹林舎、二〇一六年）、論文に「中世前期の茶の受容」（永井晋編『中世日本の茶と文化』アジア遊学二五二、勉誠出版、二〇二〇年）などがある。

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・392頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32098-2 C3021

書名	冊数
中世前期の武家の学問と交流 ——金沢文庫本と称名寺聖教 福島金治〈著〉	定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製カバー装・392頁 2026年5月刊行 ISBN978-4-585-32098-2 C3021
冊	
送付先住所・氏名(通信欄)	

室町時代の 将軍家と雅楽

「雅楽」は足利将軍の政治的武器だった――

なぜ中世の天皇・貴族は管絃の演奏に励み、歴代足利将軍家は雅楽(笙)と深いかわりをもったのか。そこには、単なる趣味や芸術的志向性ではなく、それぞれの権威や地位を演出するための不断の政治的努力があった。歴代室町将軍が、時代的背景や政治的必要性に応じて雅楽に接する姿を変化させながら、セルフプロデュースに雅楽を利用した実態を解明。

雅楽という視点から各将軍たちが背負った課題と解決策を明らかにし、室町期の政治史を読み解く。これまでの音楽史中心の雅楽研究に一石を投じ、政治史・公家社会史・権力論の新たな地平を切り拓く画期的成果。

序章 研究史の整理と本書の視角

第一部 中世の公家社会における雅楽

第一章 家業としての雅楽と御遊

第二章 鎌倉後期～室町期の綾小路家

第三章 中世天皇制と学芸

補論 光明天皇に関する基礎的考察

第二部 足利将軍家と雅楽

第一章 南北朝期における足利家の笙

第二章 足利家における笙と笙始儀

第三章 足利義材の笙始儀と豊原統秋

第四章 笙器「達智門」にみる足利義材の近江出陣

第五章 足利義植にとっての笙と義満先例――将軍権威再建への試行錯誤

第三部 足利義満と雅楽

第一章 「内侍所御神楽部類記」にみる足利義満と室町前期の公家社会

第二章 足利義満と笙との関係についての再検討

第三章 足利義満の笙と西園寺実兼の琵琶

第四章 一四世紀における公家社会の変容を考えるための一視角

補論 北山殿行幸再考
足利義嗣の元服

終章

あとがき／初出一覧／索引

石原比伊呂〈著〉

(いしはら・ひいろ)一九七六年生。聖心女子大学現代教養学部准教授。日本中世史(中世後期公武関係論)専攻。主な著書に『足利将軍と室町幕府――時代が求めたリーダー像(戎光祥選書)』、『室町幕府に翻弄された皇統』(中公新書、二〇二〇年)、『増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家』(勉誠社、二〇二四年)、編著に『戦国・室町天皇列伝(戎光祥出版、二〇二〇年)』などがある。

詳細目次は裏面

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・512頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32096-8 C3021

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・512頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32096-8 C3021

書名

室町時代の将軍家と雅楽
石原比伊呂〈著〉

送付先住所・氏名(通信欄)

冊数

冊

室町時代の将軍家と雅楽

序章 研究史の整理と本書の視角

- 第一節 雅楽史研究の基礎的考察
- 第二節 中世史研究としての雅楽史——その成果
- 第三節 中世史研究としての雅楽史——その課題と可能性

第一部 中世の公家社会における雅楽

第一章 家業としての雅楽と御遊

- はじめに
- 第一節 「御遊抄」に見る雅楽の家
- 第二節 雅楽の家の二形態と雅楽の特性
- 第三節 御遊の性格

第二章 鎌倉後期〜室町期の綾小路家

- はじめに
- 第一節 応永一五年の殿上淵醉
- 第二節 綾小路家と楊梅家
- 第三節 雅楽秩序の再編
- 第四節 争論の帰結
- 第五節 応永の争論以後の「うたいもの」
- 第六節 室町時代の綾小路家と楽書

第三章 中世天皇制と学芸

- 第一節 中世天皇制と学芸に関する研究史
 - 第二節 光明天皇と学芸
 - 第三節 光明天皇からみる中世天皇制と学芸
 - 第四節 中世天皇制と学芸についての再解釈
- #### 補論 光明天皇に関する基礎的考察

- はじめに
 - 第一節 光明天皇の教養
 - 第二節 光明天皇と光厳上皇
- おわりに

第二部 足利将軍家と雅楽

第一章 南北朝期における足利家の笙

- はじめに
 - 第一節 尊氏・基氏と頼義・義光
 - 第二節 笙と東国
 - 第三節 義詮と義家
- おわりに

第二章 足利家における笙と笙始儀

- はじめに
 - 第一節 義満の笙と義嗣
 - 第二節 笙始儀と義持の笙
 - 第三節 義教以降の将軍と笙
- おわりに

第三章 足利義材の笙始儀と豊原統秋

- はじめに
 - 第一節 足利義材の笙始儀
 - 第二節 足利義材と豊原統秋
 - 第三節 足利義材と松木宗綱
- おわりに

第四章 笙器「達智門」にみる足利義材の近江出陣

- はじめに
 - 第一節 足利将軍家と達智門
 - 第二節 義材の近江出陣と達智門
 - 第三節 近江出陣と義材の政権構想
- おわりに——義材が目指したもの

第五章 足利義植にとっての笙と義満先例

- はじめに
 - 第一節 足利義植と雅楽
 - 第二節 足利義植と「鹿苑院殿佳例」
- おわりに

第三部 足利義満と雅楽

第一章 「内侍所御神楽部類記」にみる足利義満と室町前期の公家社会

- はじめに
 - 第一節 内侍所御神楽と綾小路敦有
 - 第二節 内侍所御神楽と南北朝動乱
 - 第三節 敦有の先例操作
- おわりに

第二章 足利義満と笙との関係についての再検討

- はじめに
 - 第一節 蘇合伝受
 - 第二節 義満の公家化と笙
 - 第三節 義満の笙と北朝天皇家
- おわりに

第三章 足利義満の笙と西園寺実兼の琵琶

——四世紀における公家社会の変容を考えるための一視角

- はじめに
 - 第一節 天皇の笙始と義満
 - 第二節 後円融の笙習得
 - 第三節 義満と西園寺実兼
- おわりに

第四章 北山殿行幸再考

- はじめに
 - 第一節 行幸のあり方
 - 第二節 義嗣の行動について
 - 第三節 北山殿行幸の意味
- おわりに

補論 足利義嗣の元服

- はじめに
 - 第一節 義嗣元服の基礎史料とその比較対象
 - 第二節 義嗣元服と東宮元服
 - 第三節 親王元服と摂関家元服
- おわりに

終章

内容のまとめ
本書の成果——「王権篡奪計画説」との対決の果てに
研究史進展への応答
今後の課題

- あとがき
 - 初出一覧
- 索引

日本中世の 畠作と雑穀

「水田中心史観」批判

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・328頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32101-9 C3021

水田を中心に語られることの多かった、中世の農業生産。しかし、そのすぐ側には、水田と遜色のない面積をもつ畠地が広がり、そこでは多くの作物が実り、人々の暮らしを支えていた。

水田以外の耕地や生産は農民の存在形態や生活にどのような規定性を与えていたのか。畠作ではどのような作物が出来、どのような道具・農具が使われ、どのような制度があったのか。

「水田中心史観」を見直し、畠作史、雑穀史という視点から中世民衆の社会史を解き明かす。

序章 前近代畠作論の地平

I 古代中世の畠と水田

- 第一章 歴史の中の畑地と水田
第二章 前近代日本の畠と水田
第三章 畠作史から見た生業論
補論一 古代中世畠作史研究に関する若干の論点

——鈴木・高橋・磯貝・河音・井原諸氏の書評で考えたこと

II 雑穀と粉食

- 第四章 雑穀の思想
第五章 焼畑と雑穀
第六章 日本古代の索餅について
第七章 日本古代の粥と粉食
補論二 粉食文化研究の前進のために

III 条里と耕地

- 第八章 土地領有をめぐる条里と四至——中世成立期を中心に
第九章 開発と条里制耕地——荒野を中心に

IV 中世の土地制度と開発・灌漑

- 第十章 中世土地制度史研究と新しい地平
第十一章 中世社会成立期の農業・開発と灌漑

あとがき／初出一覧／索引

木村茂光〈著〉

(きむら・しげみつ) 東京学芸大学名誉教授。専門は日本古代・中世史。著書に『日本古代・中世畠作史の研究』(校倉書房、一九九二年)、『ハタケと日本人』(中公新書、一九九六年)、『日本中世百姓成立史論』(吉川弘文館、二〇一四年)、編著に『日本農業史』(吉川弘文館、二〇一〇年)などがある。

書名	冊数
日本中世の畠作と雑穀——「水田中心史観」批判 木村茂光〈著〉	定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製カバー装・328頁 2026年5月刊行 ISBN978-4-585-32101-9 C3021
冊	
送付先住所・氏名(通信欄)	

中近世 門跡論の 可能性

ちゅう・きんせい
もんぜきろんの
かのうせい

貴種住持の寺は いかに存続したのか



定価3,520円・本体3,200円
A5判・並製・カバー装・256頁
[アジア遊学No.315]
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32561-1 C1315

序文 近藤祐介・石津裕之

I 門跡の中世——公武権力・寺院社会・家門

もうひとつの(家門)の遺跡としての門跡：菊地大樹
中世鎌倉顕密仏教界における「門跡」：小池勝也
足利義教期の武家祈禱と聖護院門跡：林遼
中世の門跡寺院と院家——聖護院と若王子を中心に：近藤祐介
家門と門跡——地藏院の場合：大田壮一郎
門跡となった真宗の本山寺院
——戦国・織豊期の専修寺を中心に：太田光俊

延暦寺焼討ち後の「塞驢嘶餘」成立——梶井門跡と大徳寺：芳澤元
中世末期の山門派門跡と延暦寺復興：相馬和将

II 門跡の近世——寺社との繋がり・格式・朝暮関係

近世における門跡の「寺務所」：石津裕之
近世の門跡と南都寺院
——一乗院門跡と大乘院門跡を中心に：水谷友紀

十八世紀における天台宗寺門派門跡の相続と格式：佐藤一希
紅葉山法華八講と輪王寺宮
——徳川家康百三十年御忌を例に：菅野洋介

近世門跡論の現在：高埜利彦

鶴見大学文学部准教授
専門は日本中世寺院史、修験道史
東京大学史料編纂所准教授
専門は日本近世宗教史・朝廷史
近藤祐介・石津裕之 (編)

日本中世、血統に基づく尊卑観念が寺院社会にも及んだことなどを契機として、
顕密寺院において「貴種」が住持を務める寺、門跡が成立した。

中世前期に顕密寺院において成立した門跡は、法門嫡流という圧倒的な宗教的権威のもと、
世俗権力とも密接に関わり、宗教的・政治的影響力を行使しうる存在としてあった。

近世に入り、門跡は江戸幕府の寺院統制策のもとに置かれ、
世俗社会における影響力は大きく低下することとなったが、諸宗の本山や本寺として位置付けられ、
また、天台座主や園城寺長吏などの要職を務めるなど、寺院社会における特別な立場を有し、

特に門主はその出自ゆえに公家社会の一員としての側面から世俗社会とも密接な関係を持ち続けていた。
門跡はいかにして中・近世を通じて存続し続けることが出来たのか——

これまで分断されてきた中世・近世の門跡研究を接続し、

対話を深めることで、中・近世における寺院社会の連続面と断絶面を浮き彫りにする画期的成果。

<p>書名</p> <p>中・近世門跡論の可能性 貴種住持の寺はいかに存続したのか 近藤祐介・石津裕之(編)</p>	<p>冊数</p> <p>1冊</p>
<p>ご氏名/ご送付先住所 (通信欄)</p>	

梵漢和の中世

言語と論理の和歌史

岡崎真紀子 著

人間文化研究機構 国文学研究資料館教授。総合研究大学院大学教授(併任)。専門は中古文学・中世文学。主な論文に『散木奇歌集』における歌題の生成(『国語国文』九十巻九号、二〇二一年九月)、著書に『やま』とことば表現論―源後頼(『笠間書院』、二〇〇八年)、『発心和歌集 極楽願往生和歌新注』(青簡舎、二〇一七年)、共編著に『百韻連歌撰注釈 第一巻』(連歌注釈書刊行会編 新興社、二〇二三年)などがある。

和歌とは一体いかなるものであるのか――

仏教の思想と文化が広まり、定着していった中世日本において、その問いの答えは、天竺・中国・日本の三国にわたる世界認識・言語意識のなかに求められていった。仏教に由来する言語表現や論理を、和歌はどのように受け容れたのか。その受容のなかで、和歌・和語をめぐる表現や思想はどのように深化・展開していったのか。

和歌・連歌の表現、それをめぐる注釈や説話、さらには密教学、悉曇学、神道説の言説など、和歌にまつわる「ことば」への意識と葛藤を記した諸資料を通覧・分析し、これまで見落とされてきた「もう一つの和歌史」を描き出す画期的成果。

総論

I 部 序の文章史

- 第一章 勅撰和歌集仮名序小史
- 第二章 勅撰和歌集序という論理
- 第三章 「千載和歌集」から「新古今和歌集」へ
- 序における梵漢和源為憲「三宝絵」をめぐって

II 部 悉曇の歌学史

- 第四章 院政期における歌学と悉曇学
- 第五章 顕昭の歌学と音韻相通説
- 第六章 仙覚『萬葉集註釈』における言語意識
- 第七章 『毘沙門堂本古今集注』に現れた語学的方法
- 第八章 『毘沙門堂本古今集注』における韻学的論理
- 第九章 「五音連声」の歌学史

III 部 「釈教」の和歌史

- 第十章 「釈教」題の和歌と「日の本」――『嘉元百首』定為歌をめぐって
- 第十一章 中世百首歌における「釈教」題――『嘉元百首』を中心に
- 第十二章 中世連歌における「釈教」――『新撰菟玖波集』をめぐって

IV 部 仏教の詠歌史

- 第十三章 『極楽願往生和歌』における詠歌と願ひ
- 第十四章 藤原俊成における「声なるもの」の諸相
- 第十五章 『続古今和歌集』神祇歌と高野――祈親上人定誓を手がかりに
- 第十六章 『慕帰絵』における覚如の歌
- 第十七章 正徹の和歌と「竜女成仏」

おわりに

参考資料

- 一 院政期歌学書における音韻相通に関わる記述
- 二 仙覚『萬葉集註釈』悉曇および和語の音韻・文字に関する記述(稿)
- 三 『続千載和歌集』所収後宇多院長歌四百首の歌題構成抄(稿)
- 四 『新古今和歌集』釈教歌
- 五 『新千載和歌集』釈教歌
- 六 『新撰菟玖波集』釈教連歌 本文
- 七 『極楽願往生和歌』本文
- 七 関連略年表

あとがき／初出一覧

索引(書名索引・人名索引・和歌連歌初句索引)

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・704頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-39058-9 C3095

<p>書名</p> <p>梵漢和の中世</p> <p>岡崎真紀子<著></p>	<p>冊数</p> <p>冊</p>
<p>ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)</p>	

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・704頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-39058-9 C3095

日本酒を 読み解く

歴史・文化・技術

アジア遊学 312

畑有紀
HATA YUKI
芳澤元
YOSHIZAWA Hajime
〈編〉



「日本の酒の文化」を問う

古来、人々の生活に根付いてきた「日本酒」。日本酒は、神道や仏教をはじめとする信仰とどのように関わってきたのか。物語や小説といった文学ではどう描かれてきたのか。酒税制度の変遷や酒造業、また、杜氏集団や酒蔵で働く人々の組織は地域経済・社会でどのような役割を果たしてきたのか。さらには、酒をめぐる言葉や表現はどのような変遷をとってきたのか。歴史学、文学、経済学、経営学など人文社会科学領域の諸分野からアプローチし、多層的な広がりをもつ日本酒の文化の在り方を体系的に捉える。

「日本の酒の文化」を問う◎畑有紀

第1部 酒の歴史的・文化的受容

『源氏物語』の酒―酔いのまぎれと「ものまぎれ」◎石井公成
宮中儀礼における酒と音楽

『古今著聞集』『平家物語』『うつつ物語』にみる酒宴と歌謡◎猪瀬千尋
室町社会が導いた日本酒イノベーション◎松永和浩

室町・戦国期の京都における「田舎酒」の入手方法と価値◎酒匂由紀子
中世北陸・越後の酒造―白山系地域寺社の展開と醸造◎芳澤元
黄表紙に見る酒の知識とイメージ

―十返舎一九「福徳三年酒」を例として◎畑有紀

第2部 酒の技術革新と近代化

近世越後における町方酒屋と在方酒屋

村上城下町とその周辺◎原直史
幕末期上方酒造業経営と宮水◎大浦和也

明治・大正期以降の酒造労働と技術普及◎堀圭介
日本酒・焼酎の近代化と海外技術文化の受容◎佐藤淳

第3部

酒の地域資源化と国際展開

新潟清酒における「淡麗辛口」の制度化と地域アイデンティティの形成

―地域記号の誕生とその揺らぎを越えて◎岸保行
「古代酒」を手がかりにした文化財の普及啓発活動◎庄田慎矢

日本酒とラグジュアリー◎石塚千賀子
フランスにおける日本酒文化の軌跡探究◎川本美希
日本酒の評価・鑑賞の言葉◎福島由輝

「日本酒史学」の愉悅―あとがきにかえて◎芳澤元

定価 **3,300** 円
(本体 3,000 円)

A5判・並製・カバー装・256頁
ISBN 978-4-585-32558-1 C1321
2025年12月刊行

書名	部数
日本酒を読み解く 歴史・文化・技術【アジア遊学312】 畑有紀・芳澤元【編】	定価3,300円(本体3,000円) A5判・並製・カバー装・256頁 ISBN978-4-585-32558-1 C1321 2025年12月刊行
ご送付先(氏名・住所・電話番号)	

日本近世・近代 村落史研究

近世史の主役は村と百姓である――

日本近世の人口の約八割は村に住む百姓たちだった。彼ら・彼女らの動向を重視することなしに近世史を語ることはできない。近世の村とは何か、百姓たちは何を考え、どのように活動してきたのか――。村落史研究の本質への問い、災害史・民衆思想史との連環、近世・近代転換期への視点により、近世から近代における村と百姓の展開を位置づける貴重な一書。



渡辺尚志

〈著〉

(わたなべたかし)一九五七年生まれ。一橋大学名誉教授、松戸市立博物館長。専門は日本近世村落史。著書に『幕末維新期の名望家と地域社会』(同成社、二〇一四年)、『百姓たちの水資源戦争』(草思社、二〇一四年)、『日本近世村落論』(岩波書店、二〇二〇年)、『近世の村と百姓』(勉誠社、二〇二二年)、『川と海からみた近世――時代の転換期をとらえる』(瑞書房、二〇二三年)、『松戸の江戸時代を知る』(二六)たけしま出版、二〇二三年)、『二〇二五年』編著に『生産・流通・消費の近世史』(勉誠出版、二〇一六年)、『移行期の東海地域史――中世・近世・近代を架橋する』(勉誠出版、二〇一六年)、『生きるための地域史――東海地域の動態から』(共編著、勉誠出版、二〇二〇年)などがある。

序章

第一部 近世の村・百姓・地域

第一章 近世の村とは何か

＊補論一 書評 戸石七生『むらと家を守った江戸時代の人びと』

第二章 生産・流通・消費の近世史

＊補論二 書評 工藤航平『近世蔵書文化論――地域(知)の形成と社会』

第三章 近世地域社会研究の可能性――地域の視座から全体史へ

＊補論三 書評 萬代悠『近世畿内の豪農経営と藩政』

第二部 近世の災害を追究する

第四章 天明三年浅間山噴火の被害と復興――「浅間大変覚書」を読む

第五章 近世人は災害の原因をどう考えたか――天譴論への着目

第六章 浅間山噴火と硫黄採掘

第七章 弘化四年善光寺地震の体験記を読む

第三部 林野から近世・近代転換期を考える

第八章 一九世紀における村と山

第九章 山野からみた明治維新

＊補論四 書評 松沢裕作『日本近代村落の起源』

初出一覧／あとがき／索引

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-32088-3 C3021

書名

日本近世・近代村落史研究

渡辺尚志〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-32088-3 C3021

冊数

冊

ご氏名／ご送付先ご住所 (通信欄)

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

日野正紀

著

一九三六年生まれ。慶應義塾大学工学部電気工学科卒業。日野電業株式会社(現日野システム)代表取締役社長職を経て、相談役に就任し現在に至る。祖先から受け継いだ古文書の研究を始め、二〇一〇年慶應義塾大学大学院にて「江戸時代の農村」をテーマに講義、現在も研究を継続。学生時代に慶應義塾体育会山岳部に所属、工学部山岳部にも所属し後OB会長に就任、現在も山歩きを楽しむ。

古文書が

映しだす

江戸末期の 信州松島村

信州松島村(現・長野県上伊那郡箕輪町松島)における名主格の百姓・門屋に残る「門屋文書」。

江戸時代初期から末期に至る五〇〇点超の文書群を紐解き、

穀物や野菜といったモノの移動や冠婚葬祭・娯楽・医療・教育など当時の百姓たちの日常、

さまざまな身分・職業の人々が往来する伊那街道の実態を紹介。

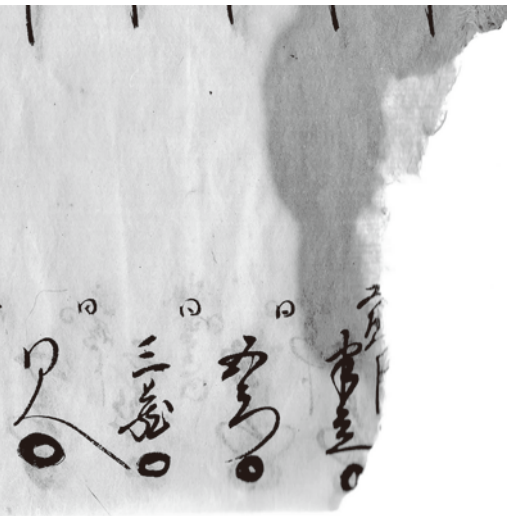
門屋十四代目にあたる著者が、丹念な文書読解、客観的な数値分析によって、

当時の農村の実態を百姓の目線から解明する。

「江戸時代の百姓は土地に縛りつけられていた」という古い江戸時代観とはちがう、

当時の百姓たちの生き生きとした日々がみえてくる。

貴重な文書写真を多数掲載。各種付表・文書目録も完備した快著。



本書刊行に寄せて 慶應義塾大学名誉教授 井奥成彦

序章

第一章 江戸時代末期の信州松島村の概要

第二章 松島村の通貨及び面積・度量衡

第三章 松島村の主要産業

第四章 松島村の金融

第五章 伊那街道往来の旅人

第六章 松島村の家庭の姿

第七章 松島村の日常生活

第八章 松島村の瓦版の出来事

第九章 松島村の物価

第十章 松島村の物価

あとがき／付表

付録 信州伊那郡松島村町方門屋 日野家文書(門屋文書)目録

定価 5,500円・本体5,000円

A5判・上製カバー装・656頁

2025年12月刊行

ISBN978-4-585-32084-5 C3021

書名

古文書が映しだす
江戸末期の信州松島村
日野正紀(著)

冊数

定価 5,500円・本体5,000円

A5判・上製カバー装・656頁

2025年12月刊行

ISBN978-4-585-32084-5 C3021

冊

ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ● 03-5215-9025

江戸の 大名家臣団

仲泉剛

〔著〕

横浜市歴史博物館学芸員

近世の大名は、一万石以上の領地を持つ、領主であるとともに、徳川將軍家に従属し様々な公務を果たした。

その拠点となった江戸藩邸は、藩主とともに多くの家臣団を置いたことから、規模は小さいが、国元藩庁と類似した藩庁組織が展開した。

従来都市史によって位置付けられてきた江戸詰武士を大名家臣団として捉え、藩政や国元との関係性を踏まえつつ、江戸詰の実態や彼らの存在形態を考察。彼らが藩社会において担った役割について検証する。

もくじ

序章 本書の課題と構成

第一部 江戸藩邸の職制と家臣団編成

- 第一章 鳥取藩江戸藩邸における職制の復元的考察
- 第二章 鳥取藩における江戸勤番の職制と編成
- 第三章 鳥取藩土の江戸勤番とその意義——保障制度とキャリアの観点から
- 第四章 鳥取藩江戸藩邸における職制の形成過程——留守から藩庁へ
- 第五章 鳥取藩における「江戸定詰」家の成立——藩士家譜を手掛かりに
- 第六章 一八世紀における鳥取藩江戸定詰の変容——交代制から世襲制へ
- 第七章 藩庁の二重構造と藩政運営の特質——一八世紀後半に注目して

第二部 藩士の江戸体験と藩社会

- 第八章 近世後期における加賀藩江戸勤番武士の娯楽と交流——勤番長屋における「参合」を素材に
- 第九章 近世後期における加賀藩江戸勤番武士の外出行動——外出時の作法形成とその意義
- 第一〇章 近世後期における加賀藩江戸勤番武士の食生活——食習慣・食好みの観点から
- 第十一章 幕末維新期における庄内藩士の江戸体験——江戸体験の伝達過程

あとがき／成稿一覧／索引（人名索引・研究者名索引・事項索引）



定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製・カバー装・368頁
2026年2月刊行
ISBN978-4-585-32089-0 C3021

書名	冊数
江戸の大名家臣団 仲泉剛〔著〕	冊
定価 11,000円・本体10,000円 A5判・上製・カバー装・368頁 2026年2月刊行 ISBN978-4-585-32089-0 C3021	
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

細川家史料と史跡が伝える

近世初期キリシタンの

信仰と 逡巡

禁教をめぐる
群像

稲葉継陽 〔編〕

(いなば・つぐはる) 一九六七年生まれ。熊本大学永青文庫研究センター教授。専門は日本中世史・近世史。主な著書に『日本近世社会形成史論―戦国時代論の射程―』(校倉書房、二〇〇九年)、『細川忠利―ポスト戦国世代の国づくり―』(吉川弘文館、二〇一八年)、『村と民衆の戦国時代史―藤木久志の歴史学―』(勉誠社、二〇二二年)、清水克行と共編著、『近世領国社会形成史論』(吉川弘文館、二〇二四年)などがある。

世界文化遺産にもなった潜伏キリシタンの歴史と実像を知るための貴重なガイドブック！

過酷な状況下にあった戦国動乱期以降の日本社会や共同体の形成と変容を考えると、一六世紀末におけるキリスト教の爆発的拡大と一七世紀の禁教の問題は、見落とすことの出来ない重要なテーマである。信仰と禁教の間で、庶民たちは、そして領主や家臣たちは、何を考え、どのように動いたのか――細川家に伝来したキリシタンの動向と禁教政策の実態を示す文書・記録資料を紐解き、各地の貴重な史跡と共に分析・解説。名もなき信仰者や弾圧者たちの心性を探ることと一七世紀の社会と人間を描き出す。

はじめに…稲葉継陽

第I部 細川キリシタン群像…稲葉継陽・鬼束実里

第1回 禁教令と「転び証文」

十字架の墓旧領にひっそりと

第2回 「転び」と「立ち帰り」

信仰の深さ 仮想現実で体感

第3回 細川忠興と加賀山隼人

小倉教会に残る信仰の証

第4回 転ばぬ重臣 小笠原玄也

宗派の垣根越えて祈り

第5回 密告賞金制度がもたらしたものの

国際港下の信仰足跡残る

第6回 弾圧に芽生えた救い

仏教徒と一緒に申す

第7回 「天草四郎」の実像

島原へと続く静かな有明海

第8回 天草キリシタン 郡浦潜入事件顛末

数百年前の息遣い今も

第9回 南有明海域の反乱

一揆戦の火ぶた切られる

第10回 一揆からの脱出者たち

交通の要所にきわった宿場町

第11回 原城総攻撃前夜

丘陵の城目と鼻の先で対峙

第12回 救いなき殺戮の戦場

破壊された城跡 大量の白骨

第13回 原城攻めへの住民動員

石碑に託した平和への願い

第14回 「四郎首」取った陳佐左衛門

一揆の痕跡 玉名の干拓地史に

第15回 大友宗麟三男・松野半斎の生涯

死を目前に最後の祈り

第16回 「天草五人衆」の子孫たち

南蛮文化繁栄 戦争の拠点にも

第17回 孤立無援な「デウスの御代」

一揆勢の様子 発掘で浮き彫り

第18回 島原・天草一揆が日本歴史に残したもの

四〇〇年続く供養 平和の尊さ問う

第19回 牢屋のキリシタンたち

あの世との境目 高麗門

第20回 一庶民キリシタンの物語

「団子地蔵」今生の別れ惜しむ

第II部 論考篇…細川家のキリシタン史料

キリシタン重臣加賀山隼人と

細川忠興…稲葉継陽・後藤典子

細川家文書にみる近世初期キリシタン穿鑿の実態

―金川惣左衛門同類の穿鑿一件―後藤典子

あとがき…稲葉継陽

書名

細川家史料と史跡が伝える
近世初期キリシタンの信仰と逡巡――禁教をめぐる群像
稲葉継陽〔編〕

定価3,850円・本体3,500円
A5判・並製・カバー装・216頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32091-3 C1021

冊数

冊

ご氏名/ご送付先ご住所 (通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

斉藤研一

〔著〕

さいとうけんいち 立正大学文学部史学科特任准教授。専門は日本中世史、生活文化史。主な著書に「子どもの中世史」(吉川弘文館、二〇〇三年)、論文に「イズメ―中世末期の風俗図屏風に描かれた育児用具」(立正大学文学部論叢「一四四号」二〇二二年)、「カニが雷神を扶む、カマキリが雷神に挑む―諺で読む『戯画図巻』」(齋藤真麻理編「戯画図巻」の世界―競う神仏、遊ぶ賢人」KADOKAWA、二〇二四年)などがある。

絵画史料を 読む

絵画史料を
読むための

実践入門書!

絵画史料が語る中世・近世の人々の暮らしと心性

疫病が流行した時、人々はどんな行動をとったのか。女性たちは、日々どんな仕事をしていたのか。酒呑童子絵巻から読み取れることは何か。そして幕末の錦絵に描かれた朝比奈義秀とは。暖簾や看板、酒宴の様子や、人と動物の関わりなど、絵巻物や洛中洛外図に描かれた図像を比較・検討し、共通点や差異、変化を読み解き、その時代を生きた人々の生活の様相、考え方を明らかにする。

はじめに

1 疫病と法師陰陽師―『春日権現験記絵』巻八第二段を読む

●はじめに●疫病●鬼は外●法師陰陽師と紙冠●門戸にて●病人の姿●疫神の襲来●『唯識論』の発見●おわりに
〔補論1〕鉢巻

2 洗濯革命―「足踏み洗い」から「手揉み洗い」へ

●はじめに●絵画史料によるアプローチ●絵巻に見る洗濯●洗濯方法の変化●洗濯方法が変わった要因●おわりに
3 働く女性たち

●絵巻に描かれた働く女性●職人歌合に描かれた働く女性●青屋の女性とイズメ

4 暖簾・看板・そして井戸―初期洛中洛外図屏風の図像

●はじめに●描かれた暖簾●描かれた看板●職人の姿あれこれ●町屋の裏に描かれた井戸●結びにかえて
〔補論2〕蜈蚣(ムカデ)

5 酒宴の風景

●はじめに●室内での酒宴●人道(人間界)の酒宴●野外での酒宴●桜の折枝●おわりに

6 捕獲・加工・消費される動物たち

●『粉河寺縁起絵巻』―捕獲・加工・消費が描かれた絵巻●捕獲―描かれた狩猟と漁撈
●戦国期の狩猟図―鷹と馬●加工―皮を張る●消費―台所に描かれた動物●流通―店頭で売られる動物

7 酒呑童子の首が大路を渡る

●はじめに●三人の少年たち●四人の男たち●首を運ぶ●おわりに
〔補論3〕チェスター・ビーター・ライブラリー所蔵「天江山絵巻」解題

8 「朝比奈島遊び」を読む

●歌舞伎の朝比奈●朝比奈と小人●異国の巨人●異国の小人●横浜開港

おわりに

図版出典一覧／初出一覧



『信貴山縁起絵巻』尼公巻(模本、国立国会図書館蔵)

定価4,620円・本体4,200円
四六判・上製カバー装・352頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32090-6 C1021

定価4,620円・本体4,200円
四六判・上製カバー装・352頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32090-6 C1021

書名

絵画史料を読む―中世・近世の生活文化史

斉藤研一(著)

冊数

冊

ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

洛中洛外図屏風の歴史学

歴博甲本から
吉川史料館本まで

定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・2025年12月刊行
736頁+カラー口絵4頁(予定)
ISBN978-4-585-32074-6 C3021

洛中洛外図屏風についての既発表論文十七本を最新の知見より改訂し、研究史、名称、成立背景、受容と伝来、系統分類、景観年代、金雲の形状、貼り札について考察した新稿など十六本を加えた、研究の集大成。
室町時代後期の洛中洛外図のみならず、江戸時代前期・中期の作品も取り上げ、洛中洛外図屏風を体系的に明らかにする。関連作品を網羅した作品一覧、貼り札のある作品の文字を書き起こした貼り札一覧も収載。
歴史学、美術史、建築学、文化史など広く隣接分野に寄与する画期的成果。

カラー口絵／まえがき

第一部 洛中洛外図屏風とは何か

●第一章：江戸時代の洛中洛外図の研究状況 ●第二章：洛中洛外図の名称について ●第三章：江戸時代の洛中洛外図の受容と伝来 ●コラム：貿易品としての洛中洛外図 ●第四章：洛中洛外図の系統分類方法
— 研究の視点について ●第五章：洛中洛外図の景観年代の指標について ●第六章：洛中洛外図の金雲について ●第七章：洛中洛外図の貼り札について

第二部 室町時代後期の洛中洛外図屏風

●第一章：上杉本洛中洛外図成立の一試論 — 輿に乗る貴人 ●第二章：洛中洛外図にみる下京の暮らし ●第三章：洛中洛外図にみる京郊村落

第三部 江戸時代前期の洛中洛外図屏風(一)

●第一章：江戸時代の洛中洛外図 ●第二章：江戸時代の洛中洛外図の主題と構図について — 二条城前の行列を手掛かりに ●第三章：林原美術館本洛中洛外図の構図と主題と発注者 — 室町期・江戸期の洛中洛外図屏風との関係を通して ●第四章：林原美術館本洛中洛外図と同一工房の作品について ●第五章：堺市博物館本系統洛中洛外図について — 耕三寺博物館本の紹介を兼ねて ●第六章：林家本系統洛中洛外図について

第四部 江戸時代前期の洛中洛外図屏風(二)

●第一章：舟木本洛中洛外図の構想について — 「当閨白」の牛車を手掛かりに ●第二章：「舟木本洛中洛外図」再考 ●第三章：司馬家本系統洛中洛外図について ●第四章：根津美術館本洛中洛外図の特徴と制作について ●コラム：洛中洛外図にみる伏見城

第五部 江戸時代中・後期の洛中洛外図屏風

●第一章：佛教大本系統洛中洛外図について — 甲群、乙群、丙群の三つの系統 ●第二章：住吉具慶本洛中洛外図作品群の描写内容と特徴 — 江戸時代中期の洛中洛外図屏風の研究 ●第三章：住吉具慶筆洛中洛外図の構想について — 生類憐みとの関係 ●第四章：洛中洛外図屏風歴博F本の位置付けについて ●第五章：渡辺美術館本系統洛中洛外図について ●第六章：朝鮮通信使行列を描くポストーン美術館本洛中洛外図について — 天和三年の将軍献上屏風の可能性 ●第七章：吉川本洛中洛外図の制作背景 — 歌人宣阿と「陰徳太平記」との関係

展示批評 企画展示「洛中洛外図屏風と風俗画」

●付論一：「都百景」の制作と構成について — 描かれた幕末の京都 ●付論二：京都舎密局の写真事業 — 公文書と写真資料から ●終章：まとめと課題
洛中洛外図屏風の貼り札／図版出典一覧／初出一覧／あとがき…洛中洛外図の研究を振り返って／索引

大塚活美

〔著〕

一九五九年、滋賀県に生まれる。立命館大学文学部史学科日本史専攻を卒業後一九八二年より京都府に学芸員として勤務(京都府立総合資料館、京都文化博物館、京都学・歴史館)。その間に佛教大学歴史学科修士課程を修了、認定アークヒスト。退職後は京都府立大学非常勤講師、滋賀県高島市と竜王町の文化財保護審議会委員。主な著書に「日本歴史地名大系 滋賀県の地名」(共著、平凡社、一九九二年二月)、「図説安倍晴明と陰陽道」(共著、河出書房新社、二〇〇四年八月)、「石の文化財から探る滋賀の歴史」(サンライズ出版、二〇二四年)などがある。

書名	冊数
洛中洛外図屏風の歴史学 ——歴博甲本から吉川史料館本まで 大塚活美〔著〕	冊
定価 13,200円・本体12,000円 A5判・上製カバー装・2025年12月刊行 736頁+カラー口絵4頁(予定) ISBN978-4-585-32074-6 C3021	
ご氏名／ご送付先ご住所 (通信欄)	



舞楽図の近世的展開

ぶがくしず

八世紀に律令国家の成立とともに国家の儀礼を荘厳するものとして制度化され、以来、現在に至るまで千三百年以上にわたり、わが国の宮中行事や主要な神社の法会などで催されてきた舞を伴う音楽である舞楽。この舞楽を独立した画題とする「舞楽図」には、

曲目ごとの舞人・楽人あるいは舞楽が催される情景などが描かれている。舞姿や装束など故実の記録画でもあり、王朝文化の象徴ともいえる舞楽図は、近世期の武家社会においてどのように受容され、武家の文化として浸透し、そしてどのようにやまと絵の一画題として広まっていったのか。

中世末から近世後期までの舞楽図の作例を順に取り上げ、描かれた舞楽の様相と制作背景、そして同時代の社会背景に目を向けながら、その変遷を考察する。

カラー口絵／凡例／序論

第一部 形成

第一章 源氏物語と舞楽図——土佐光信筆「源氏物語画帖」

第二部 変奏

第二章 近世初期舞楽の再興と醍醐寺——俵屋宗達筆「舞楽図屏風」

第三章 徳川將軍家と舞楽——日光山輪王寺蔵「舞楽図屏風」

第四章 大名と舞楽図——久隅守景筆「舞楽図屏風」

第五章 出雲大社の舞楽再興——落合利兵衛筆「舞楽図屏風」

第六章 継承された粉本——松平定信と「古面舞楽図」

第七章 近世後期舞楽図の復古と新たな系譜

史料

参考資料1 東京文化財研究所蔵売立目録記載の舞楽図一覽

参考資料2 「舞楽図屏風」(桃翁筆本)曲目一覽

参考資料3 「舞楽図屏風」(A家本)曲目一覽

舞楽図関連年表(中世～近世)

参考文献／あとがき

定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製・カバー装・400頁
2026年6月刊行
ISBN978-4-585-37024-6 C3071



(ふるや・みやこ)国立音楽大学卒業。筑波大学大学院博士後期課程修了。博士(芸術学)。現在、小山市立軍屋美術館学芸員。昭和女子大学非常勤講師。主な論文に「天倉孫兵衛と大日本物産図会——制作背景についての一考察」(筑波大学附属図書館蔵三代歌川広重画「大日本物産図会」調査報告論文集二〇一七年)、「日光山輪王寺蔵舞楽図屏風」についての「一考察」(藝叢三十四号、二〇一九年)、「ハーヴァード大学美術館蔵源氏物語画帖の舞楽場面について」(風俗史学七十号、二〇二〇年)、「近世後期やまと絵の画題と朝儀再興——石清水臨時祭を例に」(藝叢三十八号、二〇二三年)などがある。

古谷美也子(著)

書名	冊数
舞楽図の近世的展開——形成・変奏・復古 古谷美也子(著)	冊
ご氏名／ご送付先ご住所(通信欄)	

定価 9,900円・本体9,000円
A5判上製・カバー装・400頁
2026年6月刊行
ISBN978-4-585-37024-6 C3071

北 康宏

〔編集・註解〕

一九六八年、大阪府生まれ。一九九七年、同志社大学大学院文学研究科博士課程後期退学。現在、同志社大学文学部教授、博士(文化史学)。主な著書に『日本古代君主制成立史の研究』(筑書房、二〇一七年)、『古代史講義「宮都篇」』(共著、筑書房、二〇二〇年)、『人物叢書 中田薫』(吉川弘文館、二〇二三年)、『史料でひもとく日本法史』(共著、法律文化社、二〇二五年)、編集・解説に『中田薫著「日本法制史講義 公法篇」』(講談社学術文庫、二〇二四年)などがある。

大学の自治と 日本近代史

中田薫懐旧夜話と 関連史料

激動の時代を生き抜いた 大学人たちの権力との闘い

七博士事件、沢柳事件、森戸事件、河上事件、大森・平野助教授追放、瀧川事件、配属将校増員問題、天皇機関説問題——、明治から昭和初期の「大学の自治」「学問の自由」をめぐる著名な事件について、その当事者たちが赤裸々に語った珠玉の口述史料と関連史料を集成する。初公開となる法制史研究者中田薫の回顧録『中田薫懐旧夜話』を翻刻して註解を加え、関連史料の中田の盟友石井勲『東大とともに五十年』(一九七八年)、田中耕太郎・末川博・我妻榮・大内兵衛・宮沢俊義『大学の自治』(一九六三年)、田中耕太郎『大学自治制確立に至るまでの経緯』(『教育と権威』一九四六年)を付す。碩学たちの貴重な証言から、大学と学問のあるべき姿を見つめなおす。

解説―『中田薫懐旧夜話』の史料性格とその周辺―北康宏

第一部 中田薫懐旧夜話…中田薫

第二部 東大とともに五十年…石井勲

第三部 大学の自治―事件と人…〔対談 田中耕太郎・末川博・我妻榮・大内兵衛(司会)・宮澤俊義〕

附 録 大学自治制確立に至るまでの経緯―田中メモ…田中耕太郎

詳細目次は
裏面を参照

中田薫とは？

なかだ・かおる

一八七七～一九六七。
日本の法制史学の創始者。東京帝国大学教授を務め、日本の法制度を世界史的視野のもと歴史的に位置づけた。学士院会員、文化勲章受章者、文化功労者。

定価 14,300円・本体13,000円
A5判・並製カバー装・736頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-33008-0 C3037

<p>書 名</p> <h2>大学の自治と日本近代史</h2> <p>——中田薫懐旧夜話と関連史料</p> <p>北康宏〔編集・註解〕</p>	<p>冊数</p> <p>定価 14,300円・本体13,000円 A5判・並製カバー装・736頁 2026年5月刊行 ISBN978-4-585-33008-0 C3037</p> <p>冊</p>
<p>送付先住所・氏名(通信欄)</p>	

凡例
解説——『中田薫懐旧夜話』の史料性格とその周辺：北康宏

第一部 中田薫懐旧夜話：中田薫

はしがき

中田薫懐旧夜話 第一回

序言

(一)開会の辞(二)プロローグ

一 七博士開戦論

(一)七博士開戦論と戸水寛人先生(二)教授総会——箕作佳吉・穂積陳重・岡野敬次郎三教授、代表者として桂首相に面会(三)『国家学会雑誌』特集号

二 (A)ボン講座と森戸事件

(一)へボン講座問題と上杉慎吉(二)森戸事件と上杉慎吉

三 京大事件(澤柳事件) 附、瀧川事件

(一)京大事件(澤柳事件)(二)若手グループ及び有志者二十四名連署の覚書を奥田文相に手交(三)瀧川事件

中田薫懐旧夜話 第二回

四 大学制度改革

五 法経研究室の由来

六 大学移転問題

中田薫懐旧夜話 第三回

七 大学修業年限短縮問題

八 大学教授共通の習性

附、天皇陛下と相撲——江戸川流域

九 岡野先生の中田嫌い

(一)先生は長脇差気質——助教授拝命の時から中田嫌い(二)予を戸水寛人先生の子らと誤解されたこと(三)恩師に対する非礼と誤解されたこと——穂積陳重先生「隠居論」第二版の批評(四)晩年における先生の心境の変化

中田薫懐旧夜話 第四回

(五)岡野先生の中田嫌い(補)

十 大学教官の増俸問題

十一 古在総長選挙一件

(一)藤澤利喜太郎教授の暗躍(二)藤澤利喜太郎教授の胸をえぐる(三)小野塚喜平次教授、怒鳴り込む

中田薫懐旧夜話 第五回

十二 濱尾大御所に老朽教授退職を進言

(一)山川総長の秘密話(二)古在総長と原首相との内約

十三 司法試験施行期日繰り上げ運動

十四 美濃部学部長辞表提出

(一)震災後敷地問題協議(二)古在総長、美濃部教授宅訪問の結果、辞表撤回

中田薫懐旧夜話 第六回

十五 探偵中田一件

十六 七生社乱闘事件

(一)七生社乱闘事件の顛末(二)「総長訓諭」発表
十七 吉野作造問題

中田薫懐旧夜話 第七回

十八 左翼学生の小野塚総長詰問一件

十九 平野義太郎助教一件

中田薫懐旧夜話 第八回

二十 国体明徴

附論 談後余話

(一)学生処分の方針(二)歴代総長の追憶

結語 談後感想

(一)大学四十年の鴻恩(二)愛校魂(三)大学に残した二大業績——学制改革の実現と研究室の建設(四)青春不再来
あとがき

北康宏

〈編集、註解〉

大学の自治と

日本近代史

中田薫懐旧夜話と 関連史料

第二部 東大とともに五十年：石井勲

序 貴重な秘録——学問の自由と大学の自治のために

一 大学自治と小野塚先生

二 昭和初期、東大の自治体制への努力

三 五月祭の草分け

四 軍部全盛期に陸軍との一戦

五 天皇機関説は、我国法制史上は当然のもの

六 皇室財産制度の撤廃論

七 十二教授一宗教の思想点検

八 矢内原教授の辞職事件

九 大内教授等の検挙事件

十 文相荒木大将と、東大総長選挙問題

十一 世界観の転換

十二 二八会所属の両恩師

十三 母の一念

十四 決戦下の東大と東條首相

十五 K教授の罷免要求

十六 大段助教授の爆死事件

十七 決戦期大動乱下の不動点

十八 学士会館の金色洋食器

十九 東大をどうか我々の墓場に

二十 GHQの東大占拠差止め事件

二十一 埋立ての厄を免れた不忍の池

二十二 足を引っぱる国民

二十三 春彼岸の中日が三つ出来た

二十四 虎の威をあてにした年末闘争

二十五 戦後復興と池田勇人蔵相・首相

二十六 「国語」教育の問題点二つ

二十七 国家の意味は不変か
あとがき

第三部 大学の自治——事件と人

：〔対談〕田中耕太郎・末川博・我妻榮・大内兵衛(司会)宮澤俊義

一 七博士事件から澤柳事件まで

二 森戸事件より河上教授、大森、平野助教追放まで

三 京大・瀧川事件

四 配属将校増員拒否、天皇機関説問題から

五 矢内原・大内事件まで

六 荒木改革案をめぐる

七 大内問題、全学に拡大

八 河合問題と平賀爾学

九 戦後の大学再建と管理法案の流産

十 大学自治の歴史をかえりみて

付録——「大学の自治」年表
あとがき

附録 大学自治制確立に至るまでの経緯

——田中メモ：田中耕太郎

図版出典一覧

高橋宏明・宮間純一〈編〉

中央大学文学部教授
東洋史学専攻所属

中央大学文学部教授
日本史学専攻所属

歴史学の

見方・

考え方

研究の舞台裏

定価2,200円・本体2,000円
四六判・並製・カバー装・304頁
2026年3月刊行
ISBN978-4-585-32092-0 C0020

我々が生きる現代へとつながる過去の出来事を検討し、世界や社会のあり方を考える学問、歴史学。そこに携わる研究者たちは何を考え、どのように研究に取り組んでいるのか。歴史への向き合いかた、研究の視点、隣接分野との関わりなどを、研究者それぞれのリアルな試行錯誤とともに紹介。

中央大学文学部で歴史学を探究する研究者たちによる、歴史とより深く付き合っていくための羅針盤となる一冊！

はしがき◎高橋宏明・宮間純一

I 日本

- 第1章 縄紋時代を測る——考古学と自然科学のはざまから◎小林謙一
- 第2章 いにしえびとの声を聴く——京都・陽明文庫の調査から◎志村佳名子
- 第3章 歴史資料との出会い◎白根靖大
- 第4章 歩いて探る歴史学——日本中世の荘園・村落◎西川広平
- 第5章 私の近世村落史研究とはじめ◎山崎圭
- 第6章 私の天皇・天皇制研究——「昭和天皇」研究の途中で◎宮間純一

II 世界

- 第1章 シュメール語文書を読む仕事◎唐橋文
- 第2章 私の朝鮮史研究と「図書」——ハンコから朝鮮王朝の外交を読み解く◎木村拓
- 第3章 あるプロイセン兵士との出会い——私の近世ドイツ軍事史研究◎鈴木直志
- 第4章 カシユガルの歴史に関する史料を求めて——タシユケントの一写本◎新免康
- 第5章 時間と空間の歴史研究◎石橋悠人
- 第6章 「不審者」を統治する——二〇世紀南アフリカの移民管理・警察史料から◎堀内隆行
- 第7章 史料を探して——近現代エジプトの有力家系の研究◎鈴木恵美
- 第8章 カンボジア歴史研究と「民話」——農民の精神世界を垣間見る◎高橋宏明

III 隣接分野と歴史研究

- 第1章 「詩人大使」の実像に迫るために——外交文書を活用したポール・クローデル研究◎学谷亮
 - 第2章 歴史研究とアーカイブズ◎清水善仁
 - 第3章 図書館情報学と二つの歴史研究◎小山憲司
- あとがき◎高橋宏明・宮間純一
執筆者紹介

書名	冊数
歴史学の見方・考え方 研究の舞台裏 高橋宏明・宮間純一〈編〉	定価2,200円・本体2,000円 四六判・並製・カバー装・304頁 2026年3月刊行 ISBN978-4-585-32092-0 C0020
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

日本古文書学会編集
古文書研究
第101号

2026年6月

定価 4,180円(税込)・本体 3,800円

B5判並製・カラー口絵2頁+152頁
ISBN978-4-585-32411-9 C3321
2026年6月刊行

歴史学をはじめ、諸分野における研究の基盤をなす古文書学。その最前線を伝える学術雑誌。年2回刊行。

目次

カラー口絵

天文年間における飛鳥井家の西国下向と南九州の地域権力

——新出「飛鳥井雅教蹴鞠免許状」の紹介をかねて—— 中村昂希

戦国期の判物に関する一考察——出羽庄内・大宝寺義興の事例から—— 畑山周平

近世近代を通じた譜代御家人家の身分変遷——御代官手附近藤氏の事例 尾脇秀和

研究ノート 「候」字形の変化と候文の形成 山本久

明治四年撮影の明治天皇写真をめぐる交渉とその後
——「聖体を撮影せしめたまへる始」—— 篠崎佑太

地域と古文書 神戸に拠点をおく古文書会読会・六史会について 高槻泰郎

随筆

雪舟『破墨山水図』(東京国立博物館蔵)は特別な料紙に描かれていた
——大内氏の文化力を知る手がかりとして—— 橋本雄

松永弾正登場前夜の大和 村井祐樹

書評と紹介 坂上康俊著『唐法典と日本律令制』 石野智大

七隈史学会編 山田貴司責任編集『室町九州の紛争・秩序・外交』 宮地輝和

宮間純一編『公文書管理法時代の自治体と文書管理』 宮田克成

新井浩文著『文書館のしごと—アーキビストと史料保存—』 関根豊

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館編『アーカイブズ学入門』 五十嵐慧祐

日本古文書学会第五十七回学術大会要旨

彙報

口絵解説 琉球国王朱印状 五通 宮田直樹

英文レジュメ

書名	部数
古文書研究 第101号 日本古文書学会 [編]	部
定価4,180円(税込)・本体3,800円 B5判並製・カラー口絵2頁+本文152頁 2026年6月刊行 ISBN978-4-585-32411-9 C3321	
ご送付先ご住所(通信欄)	

文化財を未来につなぐ 博物館と学芸員の仕事

——学芸員をめざす人へ

定価3,080円・本体2,800円・A5判・並製カバー装・352頁
2025年11月刊行・ISBN978-4-585-30022-9 C0000

この一冊を読めば奥深い学芸員の世界がわかる！

基礎知識や法制度から、企画・展示、作品の収集や保存・修理、調査研究など多岐にわたる博物館活動の現状と課題、具体的な仕事のノウハウまでを平易に解説。学芸員の実体験やエピソードのほか、地域の文化財を未来につなぐための博物館の活動の実例を豊富に収録し、これからの博物館のあるべき姿や学芸員にとって最も大切なことを学べる入門書。学芸員志望の学生をはじめ、自治体職員として文化財保護や観光・地域振興政策の立案・推進に携わっている人、博物館のファンやサポーターとして博物館を支えていこうとしている人に必備の一冊。

はじめに

第Ⅰ部 学芸員になる前に知っておきたいこと 高木徳郎

- 1●博物館と文化財——(1)人の営みと文化財(2)博物館の定義とその目的(3)博物館法とその問題点(4)博物館の四つの機能
 - 2●博物館と調査・研究活動——(1)博物館資料と学芸員(2)博物館における調査・研究(3)博物館活動における「調査・研究」の重要性
 - 3●博物館資料の収集・保存と劣化対策——(1)文化財の収集と梱包・輸送(2)文化財の保存と劣化対策
 - 4●博物館展示の理念と実際——(1)博物館展示の特質と技法(2)博物館展示の実際(3)展示計画の設計と施工
 - 5●博物館における情報とその発信——(1)博物館における「情報」①——博物館資料についての情報(2)博物館における「情報」②——博物館そのものについての情報(3)博物館情報の発信と教育・普及機能の関係
 - 6●博物館における組織と人——(1)組織としての博物館(2)博物館の館長と職員(3)博物館における学芸員の役割とその未来
- 終章●文化財の保護と博物館・学芸員の役割

学芸員をめざすために読んでおきたい参考文献

第Ⅱ部 学芸員の実際

- 1●狭き門に挑む——資格の取得と就職 宮瀧交二
- 2●学芸員の醍醐味——展覧会の企画と開催 西島太郎
- 3●地域にある博物館・歴史資料館の可能性——福智町図書館・歴史資料館「ふくちのち」を事例に 松本尚之
- 4●地域の仏像を盗まれた！——その時、学芸員に何ができるか 大河内智之
- 5●博物館で地域調査をどう進めるか——博物館と地域貢献 前田徹・坂江渉
- 6●地域の創生と博物館 西川広平
- 7●新人学芸員の日・一週間・一ヶ月——付 先輩学芸員からのコメント 渡邊浩貴

高木徳郎 〈編著〉

【たかぎ・とくろう】和歌山県立博物館学芸員を経て、早稲田大学教育・総合科学術院教授。専門は日本中世史。主な著書に『日本中世地域環境史の研究』（校倉書房、2008年）、『歴史の旅 熊野古道を歩く』（吉川弘文館、2014年）、共編著に『荘園研究の論点と展望—中世史を学ぶ人のために』（吉川弘文館、2022年）などがある。

書名	冊数
文化財を未来につなぐ 博物館と学芸員の仕事 ——学芸員をめざす人へ 高木徳郎 〈編著〉	定価3,080円・本体2,800円 A5判・並製カバー装・352頁 2025年11月刊行 ISBN978-4-585-30022-9 C0000 冊
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

大石泰史

〈著〉

(おおいしやすし)歴史研究家、静岡市文化財保護審議会委員。同委員として活動しつづ、二〇一七年以降、大河ドラマ「おんな城主直虎」で時代考証、麒麟がくる「どうする家康」べらぼう「萬重栄華乃夢嘶」「豊臣兄弟」では古文書考証として制作に関与。古文書から得られるあらゆる情報を駆使して戦国時代を中心に中世・近世社会を解き明かす。著書に『井伊氏サバイバル五〇〇年』(星海社新書)、『今川氏滅亡』(角川選書)、『編著に「戦国遺文 今川氏編」(東京堂出版)、『全国国衆ガイド』(星海社新書)、『今川氏研究の最前線』(歴史新書)、『今川氏年表』(高志書院)、『今川義元』(戎光祥出版)などがある。

古文書考証が読み解く戦国今川氏

戦国時代の研究は日々進化を遂げている。

それを支えているのは、古文書をはじめとする新たな史資料の発見・発掘である。

これら古文書は、そこに記載された文字情報に重きを置かれることが多いが、

モノとしての古文書のあり方に目を向けると、そこにはより多くの情報が残されている。

定型の文言、花押、印判、紙の大きさ、折り方、封の仕方など、

文書がどのようなルールに基づいていたためられているのか「書札礼(しよさつれい)」。

また、文書の作成者(発給者)と受信者(受給者)との関係性は如何なるものであったのか、

どのようなきっかけで文書が作られ、なぜ伝来してきたのか「当事者主義(とうじしやしゆぎ)」。

古文書を読み解くための重要な二つの視点を駆使し、

近年、新史料の発見や既存の見解の捉え直しにより研究の進展が激しい今川氏について、

最新の研究、これからの論点を詳細に解説。

「豊臣兄弟!」ほか、

さまざまな大河ドラマの古文書考証を務め、

古文書の見方・読み方に精通した著者による、

古文書から歴史を読み解くための入門の一冊!

定価3,850円・本体3,500円
四六判・並製カバー装・288頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32086-9 C0021

プロローグ——序にかえて

第一章 戦国期の書札礼を知るために

第二章 氏親を見直す

第三章 氏輝を見直す

第四章 義元を見直す

第五章 氏真を見直す

エピソード——より深い戦国時代の理解へ向けて

参考文献・図版出典一覧・あとがき

書名

古文書考証が読み解く戦国今川氏
大石泰史〈著〉

定価3,850円・本体3,500円
四六判・並製カバー装・288頁
2026年5月刊行
ISBN978-4-585-32086-9 C0021

冊数

冊

ご氏名/ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX 03-5215-9025

プロローグ……序にかえて
戦国時代とメディア
今川氏研究と古文書考証
「基礎的な見直し」①
「基礎的な見直し」②

第一章 戦国期の 書札礼を知るために

古文書のパーツの名称
各パーツにおける注目点
料紙の形状について
判物と印判状
封式を知る
故実礼書の紹介と宛名への注目
脇付の「順位」
苗字を書かないこと
楷書書きと草書書き

第二章 氏親を見直す

奥平氏と「松平奥平家古文書写」
④今川氏親判物写
⑤武田信玄定書写
当事者主義の観点から見直す
牛久保と奥平氏
奥平氏の領域拡大と氏親文書
宗瑞の立場と吉良家との連繋
吉良氏との連繋と戸田氏との相剋
松平一族の去就と吉良氏

第三章 氏輝を見直す

氏輝文書の特徴
氏輝文書の再検討
氏輝の袖花押文書
改めて氏輝初見文書を考える
文字を見直す——「遠行」文言に拘る
「遠行」使用の意味
情勢から見直す
第一次河東一乱を振り返る
氏綱の『家格上昇政策』
今川氏輝の目論見

第四章 義元を見直す

河東一乱と将軍による停戦令
①飯尾乗連書状写
②近衛植家書状
③織田信秀書状
登場人物の整理と問題点
停戦令の発給時期
書札礼と文字
軍事的対立以前の反今川行為
義元の印判状
「義元」I型・II型印と「調」印
「義元」I型印判状の特徴
「如律令」印の印判状
二重の発給主体を示す文書
発給主体が二重の他の文書とともに
「如律令」の文言と氏真への継承
弘治三年前後の転換点

第五章 氏真を見直す

將軍義輝の御内書
義輝御内書の書札礼から
「大沢文書」の一通
文書の上書きと形状
文書内容から想定される懸河城
今川領国下の懸河城
泰朝の権限拡大に関わる遠州念劇
遠州念劇再考
懸河城の位置づけ
氏真の印判状
「氏真」印と方形「如律令」印
方形「如律令」印と同日・同宛の文書の存在

同日・同宛の文書の提示
①⑧の日付と宛名から
エピソード……より深い戦国時代の理解へ向けて
東国中心の横ノ内折
今川家と横ノ内折文書
史料の翻刻と書札礼
参考文献
図版出典一覧
あとがき

大石泰史
〈著〉

古文書考証が 読み解く戦国今川氏

古文書から歴史を
読み解くための入門の一冊！